

第 13 回 200 年の森づくりデザイン策定実行委員会

日 時：平成 24 年 9 月 10 日（月） 14:00～16:00

場 所：前橋市市民活動支援センター 会議室（前橋プラザ元気 2 1/3 F）

参 加 者：大松 稔（NPO 法人ぐんま緑のインタープリター協会）、田中洋助（ぐんま森林インストラクター会）、菊川照英（NPO 法人フォレストぐんま 2 1）、高橋正直（群馬県渋川森林事務所長）、勝山 栄（前橋市東部農林事務所長）、石塚 征人（赤城南麓森林組合）、岡田 茂（サンデンファシリティ株式会社）、長島 成和（株式会社興林）、小林善紀（事務局）

議 事 録

前橋市田村農政部長の代理出席者、勝山 栄さんの自己紹介を行った。

議 題

1、前回（第 12 回）議事録によるレビュー。

事務局の議事録朗読により承認された。

2、平成 24 年度日本財団助成事業「松枯れ林地再生プロジェクト」 実施事業報告

7 月 15 日 前橋工業高校森づくり 事前準備事業 実施報告

報告書により確認された。

8 月 21 日 前橋工業高校森づくり 実施報告

報告書により確認された。

松下校長より、来年以降も継続して森づくりをしていきたい旨の報告あったことが添えられた。

9 月 2 日 AKG 森づくり 下刈り作業 実施報告

報告書により確認された。

座長より「AKG の森づくりは赤城自然塾のサポートを控えて、AKG の自主活動にしていくべき」との発言があった。

3、200 年の森づくりデザイン策定について（5～6 回の実行委員会等を経て）

方向性の共有化と時系列計画立案

- ・ 最新の赤城地域松枯れ被害現況図を作成、提示する。

（1988 年時点の赤城地域の森林植生状況は入手した現存植生図で知り得る。

被害現況図は森林組合をとおして入手できる、最新の森林航空測量図から松枯れ林地を 5 段階に分類し、色別に塗りつぶしを行っていくことにした。そのためには大松座長を中心に、長島委員、石塚委員、小林事務局員により 8 月後半に赤城南麓森林組合に集まり 5 段階の定義づけを行う。また、分類する各段階の林地の現場確認も行う。

この 5 段階塗りつぶし図面を基に、次回の実行委員会で次のステップについて話し合い、森づくりデザイン策定へのプログラムを確認していく。）

8 月 27 日 赤城南麓森林組合にて赤城地域松枯れ被害現況図を作成の打ち合わせ 報告

8 月 27 日実施、大松、長島、石塚、小林 4 人による被害現況図作成についての打ち合わせを行い、9 月 10 日の実行委員会までに、たたき台になる図面を石塚さんが作成し、提出することになった。

なお、水源林を確認する意味で河川図も合わせて提示することとした。

石塚さん作成の被害現況図の提示と説明

別紙、赤城南麓管内松林配置図面に標高別の 7 段階塗りつぶしをおこなったものを基に、配布資料と

プロジェクター投影により説明した。

薄青 200m～400m 未満は被害率 80%～100%、青 400～600m 未満は被害率 40%～80%、濃青 600m～800m 未満は被害率 20%～40%、他にピンク 800m～1000m 未満は被害率 20%～30%、茶 1000m～1200m 未満は 0%+

となり、ピンク、茶は県有林が殆んどのため、県の造林計画にお任せし、対象地からは外してもよいのではと提案あり。

方向性の共有化と時系列計画について

対象エリアは薄青、青、濃青の 3 エリアとすることが確認された。

3 エリア内でサンプル的団地化を図り、森づくり計画案を提案することや水源林を選び出し、森づくり計画を提案していく案等が出たが、方向性の共有化は次回の実行委員会に持ち越した。

時系列計画は取り敢えず 11 月 12 日（月）14：00～16：00 とし、そこで決めることとした。今回提出のなかった河川図入りの松林配置図は、次回提出されることになった。

5、その他

次回の日程

日 時：平成 24 年 11 月 12 日（月） 14：00～16：00

場 所：前橋市市民活動支援センター 会議室

以上